



海南病院のチーム医療「患者参加型医療」を支える医療支援ピクトグラムシステム

海南病院が、アルファテック・ソリューションズの「医療支援ピクトグラムシステム」を採用し、病室とナースステーション、診療に携わる多くの医療スタッフをつなぐ情報共有を進めている。電子カルテシステムと連携した看護業務のサポート、患者への効果的な情報提供で、すでに大きな効果を達成。さらに、患者自身による操作や入力を容易にすることで、海南病院が取り組む「患者参加型医療」を推進するためのインフラとしての役割も担いつつある。

お客様課題

- 質の高い、安心・安全なチーム医療を支える、医療スタッフのための情報共有
- 患者自身が主体性をもって病気や治療への知識を高める「患者参加型医療」の推進

ソリューション

- 「医療支援ピクトグラムシステム」を10病棟・485床に導入
- 電子カルテシステムの最新情報を医療スタッフが病室で参照可能に
- 検査やリハビリ等、入院中のスケジュールや食事制限など、患者への情報提供をスムーズに
- 病室での注意喚起の張り紙やお知らせなどの掲示を削減し、業務効率化を推進

導入成果

- 全病床への正確かつ迅速な情報提供・共有を実現、情報の一斉配信も可能
- 患者自身が食事量や排泄回数の情報を入力するなど医療への参加に寄与
- 病院独自のケアの工夫やノウハウをピクトグラムシステムに反映・継承

より高度化する医療ニーズに応えるために

JA愛知厚生連 海南病院は、海部医療圏・三重県の北勢地域の一部をカバーする基幹病院である。全31科・540床（一般病床534床、感染病床6床）を擁し、大学病院本院に準ずる診療機能を持つDPC II 群病院として認定されている。副看護部長を務める伊藤恵美氏は次のように話す。

「急性期の高度医療機能の提供をはじめ、地域医療を守る基幹病院としての期待と責任を日々感じています。私たちが、より質の高い、安全・安心な医療を提供するためには、医療チーム全体での情報共有が不可欠です。電子カルテは情報共有を大きく改善させましたが、医療スタッフが患者さんに接する病室では、現場に即した情報共有のための仕組みが求められていました」

医師・看護職員・検査技師・薬剤師・リハビリセラピスト・医療事務——複数の医療スタッフがスムーズに連携するには、患者ごとの注意喚起や、診療スケジュールなどを正確に共有しなければならない。従来これらの情報は電子カルテ上で管理され、専用端末でしか参照できなかった。病床に用意されている床頭台や壁には、情報共有・伝達のためのメモ用紙が何枚も貼られることがあったという。

「病室では看護師たちの知恵と工夫で情報を共有してきました。しかし、メモの内容が古くなっていたり、貼る場所がばらばらであったり、様々な課題がありました。この状況を大きく変えてくれたのが、2016年7月から利用を開始した『医療支援ピクトグラムシステム』です。すべての医療スタッフが、病室にいながら必要な情報を瞬時に参照できるようになったのです」（伊藤氏）

医療支援ピクトグラムシステム

アルファテック・ソリューションズが提供する「医療支援ピクトグラムシステム」は、全国の医療機関で豊富な導入実績がある。ピクトグラム（絵文字）を採用した直感的な画面デザイン、タブレット端末ならではのタッチ操作により、医療スタッフだけでなく患者自身でも情報の参照や入力が可能なのが特長だ。副看護部長の飯田月美氏は次のように話す。

「医療スタッフは、電子カルテシステムから共有された患者さんごとの情報を、病室の医療支援ピクトグラムシステムで患者さん対話しながら参照することができます。食事量や排便回数など患者さんの状態や食事制限があるか、歩行に補助が必要かなど、特に注意が必要な事項も解りやすいサインで一目瞭然です」



タブレット端末は病床でも操作しやすい位置に設置。



手術の予定日やその日のスケジュールも確認できる。

医療支援ピクトグラムシステムが実現した正確かつ迅速な情報共有は、患者への適切なケアはもちろん、チーム医療プロセスの効率化にも寄与している。

「従来は、患者さんの情報は担当看護師に集約されがちでした。仕事を引き継ぐ医療スタッフは、その看護師に聞かなければわからないことも多かったのです。医療支援ピクトグラムシステムを利用することで、すべての医療スタッフが同じ情報を参照しながら、業務を進めることができるようになりました」（飯田氏）

医療支援ピクトグラムシステムのタブレット端末は床頭台の側面に設置され、ベッドに横たわった患者にも操作しやすいよう配慮されている。



JA愛知厚生連 海南病院
副看護部長
伊藤恵美氏



JA愛知厚生連 海南病院
副看護部長
飯田月美氏



病院紹介

JA愛知厚生連 海南病院

病院長 山本直人

愛知県弥富市前ヶ須町南本田396番地

540床(一般病床534床、感染病床6床) 全31科

DPC病院II群

海部医療圏・三重県北勢地域の一部をカバーする基幹病院として、急性期の高度医療機能を充実させている。2016年12月に、「コンパクト・高機能・次世代型」のコンセプトを掲げた新病院を竣工させた。

<http://www.kainan.jaaikosei.or.jp>

「注意喚起のピクトグラム表示は、患者さん自身に気をつけていただくためにも効果的です。検査やリハビリなど1日のスケジュールもタッチ操作で即座に確認できますので、ご家族の方を含めて高い利便性を提供できていると思います」(伊藤氏)

医療支援ピクトグラムシステムは、次のようなメリットをもたらした。

医療スタッフに >>

- ◎患者の状態が把握でき、適切なケアにつなげることができた
- ◎電子カルテとの連携により正確な情報を瞬時に病室で入手可能に
- ◎ナースステーションに戻り確認する手間や、メモの作成や貼り付ける手間が減り、また環境の改善にもつながった
- ◎情報の共有化が図られチーム医療が強化された

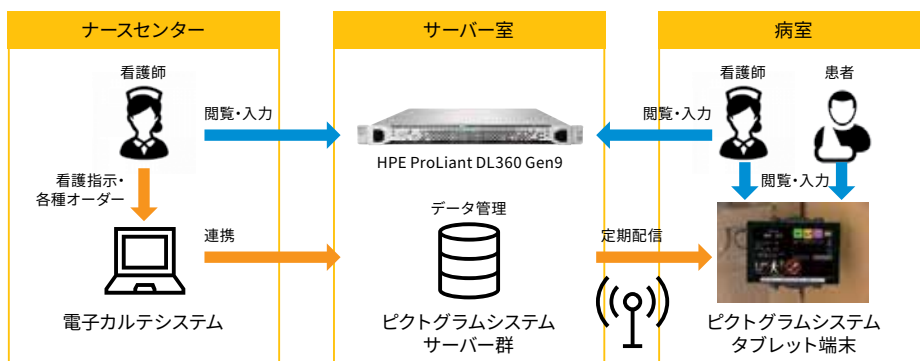
患者と家族に >>

- ◎手術や検査・リハビリなどのスケジュールが参照でき、入院生活での不安低減につながった
- ◎食事量・排泄回数などを患者自身で入力するという患者参画による情報共有を図ることで、自分の変化に気づききっかけになった

The screenshot shows a patient's dashboard with various information: name (東京 花子), doctor/nurse (押上 一郎, 安部 月子), dates (07/25, 18:23), and icons for bed status, hospital status, and allergies. Annotations point to specific features: '氏名' (Name), '転倒・転落 アセスメントスコア' (Fall/Dislodgement Assessment Score), '搬送区分' (Transfer Category), '入院セット' (Admission Set), '主治医・担当看護師' (Attending Doctor/Nurse), 'お知らせ' (Notice), 'ピクトグラム' (Pictogram), '注意喚起' (Attention Alert), and '入院日 手術日' (Admission/Operation Date).

医療支援ピクトグラムシステム(メイン画面)

メイン画面では、患者名、主治医・担当看護師の氏名、入院日・手術予定日などの基本情報のほか、患者ごとの注意事項(飲食制限、飲水種類制限、監視下移動、食物アレルギー、同姓同名患者の有無、徘徊監視の要不要)を解りやすいサインで表示する。病院からの「お知らせ」をテロップ状に配信することも可能。



医療支援ピクトグラムシステムの稼働環境には、高い信頼性を持つラックマウント型サーバー「HPE ProLiant DL360 Gen9」が採用されている。

ピクトグラムシステムの導入は、2015年夏からおよそ1年をかけて慎重に進められた。課題の整理と業務の見直しを行いながら、ピクトグラムサインの検討、電子カルテシステムとの連携、コンテンツの整備などが着実に進められていった。

“今後、医療支援ピクトグラムシステムを活用し、病室で入力した情報を電子カルテシステムへ反映させる機能について、運用面を考慮しながら実装に取り組んでいきたいと思っています”



アルファテック・ソリューションズ株式会社
アカウントサービス事業部
ヘルスケアサービス部
サービスグループ 第4チーム
秦政彦氏

“弊社のコアビジネスである、サーバー保守・セキュリティ対策、業務サービスで培ったノウハウを生かして、安心・安全に運用し続けていきます。今後も、ピクトグラムシステムの先進的な活用をご支援していきたいと思っています。”



アルファテック・ソリューションズ株式会社
アカウントサービス事業部
ヘルスケアサービス部
営業第2グループ
小野敦司氏

「看護師の教育に時間を要したり、運用が混乱するのではないかと不安が少しありましたが、実際に導入されてみると、若い看護師はあっさりを使いこなしてくれました」と伊藤氏は振り返る。直感的な扱いやすさが考慮された画面デザインと、タブレット端末ならではの使い勝手が早くも威力を発揮した形だ。導入後は、病院全体での運用を均質化するために、新人教育や病棟単位での教育が行われている。

「患者参加型医療」を積極的に推進

医療支援ピクトグラムシステムの端末画面が直感的でわかりやすいこと、病床で横たわっていても患者自身が容易に扱えることが、海南病院の推進する「患者参加型医療」に成果をもたらしつつある。

「食事量、排泄回数を患者さんに入力してもらうを進めています。従来は看護師が聞いてチェック表に記録していましたが、患者さんに入力してもらうことで自身の病気や治療への意識を高めていただくことを勧めています」と飯田氏は話す。



タブレット端末はどんな姿勢でも使いやすいよう配慮されている。

患者が主体性を持って医療に参加することで、医師や看護師とより深く、より良好なパートナーシップが構築できる。一歩踏み込んだ質問や相談が交わされるようになれば、より質の高い医療の提供につながるというのが、海南病院が推進する「患者参加型医療」の基本的な考え方だ。

ピクトグラムシステム導入の成果を継続的に追求

医療支援ピクトグラムシステムは、医療情報の共有・伝達に大きな威力を発揮した。病室での患者ごとのケアも、よりの確に行えるようになったという。今後は、患者参加型の医療を支えるインフラとしての役割を高めていくことになるだろう。

「2016年7月からピクトグラムシステムの利用を開始し、すでに患者さんの転倒・転落の予防など一定の成果をあげています。学会での成果発表を見据えて、定量的な指標を確立しながらより高い成果を追求していく考えです」と伊藤氏は決意を示す。

「アルファテック・ソリューションズには、私たちの要望を数多くシステムに採り入れてもらえました。中でも、患者さんによる入力機能と、入力しやすくするための工夫は海南病院独自のものです。継続的な改善に向けたレポートや提案を含め、今後も力強いご支援を期待しています」と飯田氏は結んだ。

海南病院の「患者参加型医療」への取り組みと、それを支える医療支援ピクトグラムシステムの導入は、医療情報の電子化と療養環境のあり方に重要な示唆を与えるに違いない。

© Alphatec Solutions Co., Ltd.

記載事項は個別に明記された場合を除き2017年11月現在のものです。

アルファテック・ソリューションズ株式会社

本社 〒131-0045 東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリーイーストタワー TEL. 03(6831)7200(代)
大阪拠点 〒541-0044 大阪府大阪市中央区伏見町4-1-1 明治安田生命大阪御堂筋ビル TEL. 06(6204)8884
戸田テクニカルセンタ 〒335-0026 埼玉県戸田市新曽南4-3-72 TEL. 048(431)0403
<http://www.alphatec-sol.co.jp>

お問い合わせ：ヘルスケアサービス部 healthcare@ml.alphatec-sol.co.jp